

# 英語で社会問題を学び、考える授業実践

## －南アフリカ共和国における差別と教育格差についての学習－

やまのい じゅんぺい  
山井 惇平

キーワード：CLIL 内容言語統合型学習 英語で学ぶ 南アフリカ共和国 貧困 教育格差

### 1. はじめに

本研究は CLIL (Content and Language Integrated Learning・内容言語統合型学習) を基盤とした授業実践についてである。CLIL とは、言語教育と他教科などの内容教育とを統合した形で行う教育方法の総称である。教科内容を題材にしてさまざまな言語活動と指導を行い、外国語の 4 技能を向上させていくことを目指す。

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申において、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」について言及されている。コミュニケーションの基盤を育成するだけでなく、創造的思考力を育むことが教科として求められている状況において、社会的な事象について学び、答えが一つに定まらない問いについて考え、異なる他者と関わりあいながら、自らの考えを発信し、多様な意見を受容し、時には合意形成を図ることも大切であろう。

また、筆者の経験ではあるが、自身の教育体験を通して文法訳読だけでなく、英語で何かを学ぶということも経験してきた。英語で学ぶものはたいてい他国の文化や社会に関するものであったりした。講義を聞くことや文章を読むことによって個別知識を得るだけでなく、話すことや書くことを通して、体験等や推察等も交えながらテーマについて考えて伝えるという経験を通して、一つの概念的な知識を学習者として構築していったのではないかと内省している。そしてそこにある知的好奇心や、仲間の学習者と協同する喜び、外国語科としての物事の捉え方を一人の英語科教員として生徒に伝えたいと思っている。

以上のような教員として届けたい学びと社会的要請を実現できる可能性のある教授法の一つが CLIL であった。本稿では CLIL 実践についての報告を行う。

### 2. テーマ設定

CLIL の授業を作る際に、授業を通して身につける、あるいは活性化させることを目標とする、4 つの C (Content, Communication, Cognition, Culture) を設定した。特に Content (内容) は授業の中核になるものである。今回の授業で扱った内容は南アフリカ共和国の社会についてである。今日において差別と貧困は日本を含む世界における社会問題である。南アフリカ共和国において、アパルトヘイト (人種隔離政策) が社会に根差していた。20 世紀後半からネルソンマンデラ氏を中心となり黒人の人権が回復されていった。しかし、現在においても、アパルトヘイトが社会に残した傷跡は大きく、社会の中心問題は人種差別から経済的格差へとすり替わっていった。差別や貧困を取り囲む社会について理解を促し、思考のフレームワークを用いながら、社会問題に対する解決策を考えることを通して、生徒が知識を概念化させることと内容を自分事として考えさせることを促そうとした。

### 3. 指導案

次頁以降に指導案を示す。

## 英語科学習指導案

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎  
授業者：山井 惇平

1. 日時 令和 4 年 11 月 12 日 2 時間目 (11:10 ~ 12:00)
2. 場所 大阪教育大学天王寺キャンパス西館講義室 F
3. 対象生徒 高校 I 年 B 組
4. 使用素材・出典
  - ・教科書『EARTHRISE』Lesson13
  - ・Two girls' lockdown learning underlines South Africa's educational divide (REUTERS)
5. 単元目標 南アフリカ共和国における黒人差別の歴史と現状の課題について考える
6. 教材観

教科書 Lesson13 の “I'm interested in history” から発展して南アフリカ共和国の歴史について学びを深める。同国でかつて行われていた人種隔離政策（アパルトヘイト）の廃止にむけて尽力したネルソン・マンデラの伝記を通して国の歴史を学んだあと、オンライン記事をもとにした自作教材を用いて同国の現在の課題について学び、考えることを促す。

またオーセンティシティ（本物らしさ）にこだわることに焦点を当てている。CLIL においては、学習用途以外に用いられた、メディア（ニュース記事・映画 etc）を用いることが推奨されている。したがって、今回はオンライン記事をもとに作成した教材を用いる。
7. 生徒観

思考・判断・表現に係る活動を好む、あるいはそれらが得意な生徒が多い集団である。普段の学校生活から話し合いを通じて意見を交換するという力が養われている。英語の指導においても、集団の特性を活かし、良質な考えを引き出させるために、日本語も効果的に用いつつ、アウトプットの場面で英語を用いることができるように促したい。
8. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>【書くこと】</b> ①南アフリカ共和国の都市や歴史について関係副詞 where, when を適切に用いて表現している。</p> <p><b>【読むこと】</b> ②南アフリカ共和国に関する英文を読んで内容を理解することができる。</p>	<p><b>【話すこと [発表] / 書くこと】</b> ①南アフリカ共和国で起きている負のサイクル対して講じることのできる対策を考え、英語で書き、伝えている。</p> <p>②準備した英語を用いて、自分たちの考えた対策を整理して分かりやすく伝えている。</p>	<p><b>【話すこと / 書くこと】</b> ・考えた内容を他者へ伝えようとする。 ・他者の考えを知ろうとする。 ・自己の体験や歴史・ニュースなどをもとに、自分の意見を構築しようとする。</p>

9. 単元指導計画

時間	学習内容・活動	備考
1 (10/24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Lesson 13 “I’m interested in history” (10 分) 歴史上の偉大な人物を選んで紹介する</li> <li>○ 南アフリカ共和国とネルソンマンデラについての導入</li> <li>・ Vocabulary Check/Note-taking/Quiz</li> </ul>	
2 (10/25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南アフリカ共和国とネルソンマンデラの歴史について学ぶ（ネルソンマンデラが抵抗を始めてから大統領になるまで）</li> <li>・ ジグソー法にてペーパーバックの一部を読解</li> <li>・ Fill-in-the-blank Task・Complete a summary</li> <li>・ Retelling</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【ジグソーリーディング】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒は 4 か 5 人の班に分かれる。</li> <li>・ 各班員で A, B, C, D の役割を分担する。（読解箇所）</li> <li>・ 各班から同じ読解箇所を担当する生徒が集まり、エキスパートグループを作る。</li> <li>・ エキスパートグループで協力して担当箇所を読解する。</li> <li>・ 初めの班に戻り、読解した内容を Retelling する。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Read some parts of ‘Nelson Mandela’ (Rowena Akinyemi, Oxford bookworms library)</li> </ul>
3 (10/28)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 映画『Invictus』の要約版を視聴する。</li> <li>○（宿題）授業終了時点で学んだことについてコメントシートを書く。</li> </ul>	
4 (11/12) 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍における南アフリカ共和国の社会的分断について書かれた記事を読む。 (<a href="https://www.reuters.com/article/uk-health-coronavirus-safrica-education-idINKBN23B1P9">https://www.reuters.com/article/uk-health-coronavirus-safrica-education-idINKBN23B1P9</a>)</li> <li>○ 社会における負のサイクルについて考える</li> <li>○ 負のサイクルに対する解決策を理由とともに考える</li> <li>○（宿題）時間をとり、授業で出た考えをブラッシュアップする。</li> </ul>	

## 10. 本時の展開

### (1) 目標

- ・ 4C の考えごとの目標をに示す。

Content	Communication	Cognition	Culture
【宣言的知識】 南アフリカ共和国の 歴史と社会	【言語知識】 政治・社会関連の語彙	【低次思考力】 理解	【協同学習】 グループワーク
【手続的知識】 負のサイクルについて 解決策を考える	【言語技能】 聞く・読む 話す・書く	【高次思考力】 創造・分析	【国際意識】 差別 社会格差

### (2) 学習過程

時間	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
導入 5分	○あいさつ ○ Small Talk	・ 生徒が話しやすい雰囲気 づくりを行う	
展開 40分	○本時の内容と目標の提示 T：南アフリカの現代社会について知るため に英文記事を読解することを伝える。 ○ジグソーリーディング [15分] ・ グループ内で役割分担行い英文記事を読解 し、Graphic Organizer を完成させる。 S：教室の四隅に掲示した記事を読み、WS ①を完成させる。 S：自グループに戻り、WS ①の Retelling Aid を用い、記事の概要を成員に伝える。 他の生徒は各自の WS ①に記入する。 ・ 全体で WS ①の答え合わせを行う。 ○ Task [5分] ・ Negative Cycle について例示する。 ・ WS ②の Negative Cycle を完成させる。 ○ Discussion Question [20分] WS ②を用い、初めに、Negative Cycle に 対する解決策（理由つき）を個人で決める。 ・ グループで出た解決策と理由を共有。	・ 見通しをもって学習に取り 組むよう促す  ・ グループ内での英語議論 を支援するために、ファ シリテーターを設ける。	WS ① 【知②】 【思①】  WS ② 【思①】
まとめ 5分	・ 授業のまとめを行う。 ・ 授業を通して考えたことや学んだことにつ いて書く英作文課題を課す。		英作文課題 【思②】

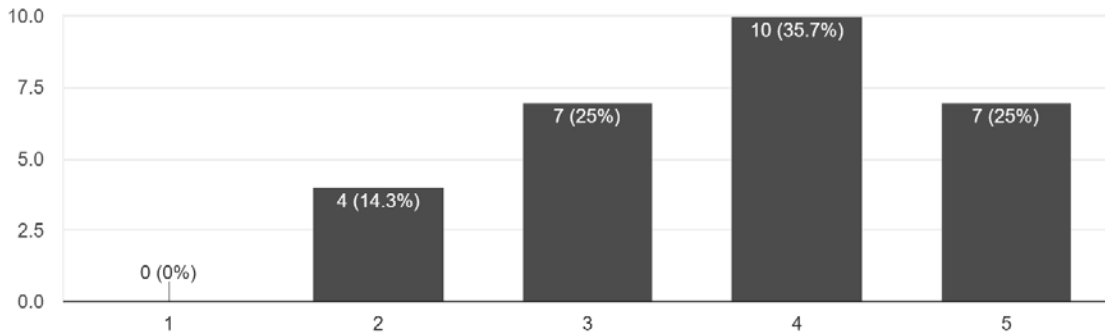
#### 4. 生徒の反応

授業終了後、Google フォームを通じて感想等を集約した。筆者が特筆すべきだと思った質問と回答を抽出する。

<質問：今日までの授業を通じて、南アフリカ共和国の社会問題についてどの程度関心を持ちましたか。>

Q1. 今日までの授業を通じて、南アフリカ共和国の社会問題についてどの程度関心を持ちましたか。

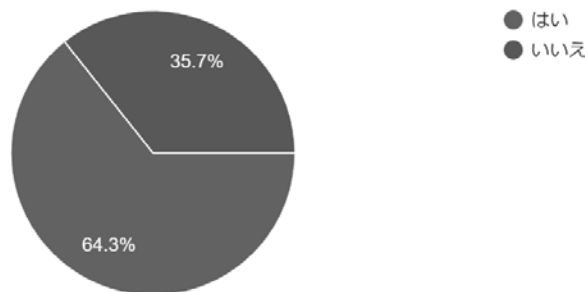
28 件の回答



<質問：今日は南アフリカ共和国の社会問題について学びましたが、この学びは他国や日本における似た問題について考えるときに役立ちそうですか。>

Q3. 今日は南アフリカ共和国の社会問題について...似た問題について考えるときに役立ちそうですか。

28 件の回答



##### 【「はい」と回答した生徒の理由】

- ・人種差別は南アフリカでは黒人と白人と分けられるような差別だが日本においては部落差別が表面的には悪いことだと言われているが完全に消えたわけではないから。
- ・低賃金労働はどこ国でも問題を抱えていると感じるため。

##### 【「いいえ」と回答した生徒の理由】

- ・他国には同じような問題を抱えているところが発展途上国を中心にある。しかし、日本では違うアプローチじゃないと解決出来ない問題があるの思う。
- ・日本と南アフリカはレベルが違いすぎるので使えないと思う

「いいえ」と答えた生徒の中には、単純に一つの学びを他の問題に転用することにはあまり役に立たないと考えている者もいるように思われる。

一方、「はい」と答えた生徒の中には、南アフリカ共和国における人種差別で学んだことは、日本における部落差別に対して考える際の類推の材料として考えているようにも思える。学んだことを単元内で完結させずに演繹しようとしている姿勢が感じられる。

＜質問：「南アフリカの社会の学びについての感想をお願いします。」に対する生徒のコメント例＞

- ・社会的な差別を解消する為に立ち上がった人たちはとてもかっこいいし、英雄的だが、簡単には根本的な改革がなされていない現状に、虚しさを感じた。
- ・黒人の政治家や指導者がどう頑張って黒人差別と言われる世の中を作っても白人の中にはまだ差別をする人がいるんだなと悲しくなった。
- ・一つの国のことについて深く知ったことがなかったので、歴史も踏まえつつ、現代の課題を学ぶことでいろんな面から少しでも解決方法を考えることができた。

中学校英語科では、キング牧師の公民権運動について学んでいる。中学校では英雄的な活躍に焦点が当てられていることが多いように思われる。今回の授業でも黒人への差別という類似テーマを扱っていたが、社会課題の解決に焦点を当てたため、未だ十分に改善されない現状を知って虚しさを感じる生徒もいたように思われる。

外国語科では言語を学ぶだけでなく、その外国語が使われている国の社会について学ぶことも重要である。その際に CLIL を基盤とした授業設計が有用であるかもしれない。

## 5. 分析・今後の課題

### 5.1. 日本語の使用について（思考言語と発信言語）

英語での発問についてグループで考える際に、日本語を用いているグループが多くみられた。深い思考を促すための言語として母語は有用である一方で、母語と英語ではある対象を表現する方法が異なる。英語で受信した情報について、日本語を用いて考え、英語で発信するという過程においてコミュニケーションの流畅さは失われてしまう可能性がある。思考言語と発信言語が一致することによって、英語で即興の議論を行うことをより容易にする可能性がある。

### 5.2. 読み指導

今回は、英文記事を4つのパートに分割し、ジグソーリーディングを行ったが、読みの指導としては時間を十分にとることができなかった。リーディング活動が穴埋めの作業に感じたというコメントもあったため、日ごろから、即興で読み取ったものを自分の力でまとめ、相手に伝えるという活動に慣れさせることで、生徒が情報を読み取る力を養いたい。

### 5.3. CLIL で求められるオーセンティックな教材と、英語素材の教材化

CLIL では Authentic（本物らしい）な教材を用いることが推奨されている。しかし、実際に生徒の発達段階に合った教材を準備しようとするために、素材となる英文記事の語彙レベルを下げ、分量を減らすという作業によって、結果的に Authenticity が少し失われた。Authenticity を保つということと、教材化することの間に葛藤が生じた。所感ではあるが、教材のもとになる英文記事や本などの素材が、現実社会と大きくつながりを持っていることが大切であるように思われた。言語としての英語の Authenticity は下がったとしても、内容としての Authenticity が大きく損なわれないように配慮することが大切なのではないかと思った。

## 6. 参考文献

- 和泉伸一（2016）『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』株式会社アルク  
池田真（2016）『CLIL（内容言語統合型学習）上智大学外国語教育の新たな挑戦 第3巻 授業と教材』上智大学出版  
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』

## Learning and Considering Social Problems in English Classroom

— A lesson about Discrimination and Educational Gap in South Africa Republic —

YAMANOI Jumpei

Key Words: CLIL, South Africa Republic, Discrimination, Educational gap

This study reviews and analyzes a CLIL-based lesson, whose content is about discrimination and educational gap in South Africa Republic. The aim of the lesson is to learn social problems and conceptualize pieces of knowledge by utilizing visual aids such as conceptual map, and to discuss the solution to the problems. Students reported some comments in the questionnaire after this lesson. One student tried to apply their learning to similar social problems in other parts of the world. Another student was able to consider the problems from different perspectives after learning the history and current situation of the country (South Africa Republic).